

ICD-11の「精神、行動又は神経発達の疾患」についての理解を深めるために

神庭重信

九州大学名誉教授

ICD/DSM Harmonization

- アドバイザリーグループと WHO/APA ハーモナイゼーション委員会は、共通の分類フレームワーク（「メタストラクチャー」）の開発に重点を置いた。
- ほとんどの ICD-11 ワーキンググループには、DSM-5 の委員会のメンバーが参加していた。
- ICD-11 ワーキンググループは、DSM-5 の定義を考慮し、違いの根拠を示すことが義務付けられた。
- メタストラクチャーはほぼ統一（ただし、一部相違点が残る）

ICD-10

- 器質性精神障害
- 物質使用障害
- 精神病性障害
- 気分障害
- 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害
- 生理・身体的要因に関連する行動症候群
- パーソナリティ障害
- 知的障害
- 心理的発達の障害
- 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害

DSM-5

- 神経発達症群
- 精神病性障害群
- 双極性障害群
- 抑うつ障害群
- 不安症群
- 強迫症群
- ストレス関連障害群
- 解離症群
- 身体症状症群
- 摂食障害群
- 排泄症群
- 睡眠－覚醒障害群
- 性機能不全群
- 性別違和
- 秩序破壊的・衝動制御・素行症群
- 物質関連障害・嗜癖性障害群
- 神経認知障害群
- パーソナリティ障害群
- パラフィリア障害群

ICD-11

- 神経発達症群
- 精神症群
- 気分症群
- 不安症群
- 強迫症群
- ストレス関連症群
- 解離症群
- 摂食症群
- 排泄症群
- 身体的苦痛症・身体的体験症
- 物質使用症・嗜癖行動症
- 衝動制御症群
- 秩序破壊的・非社会的行動症群
- パーソナリティ症群
- パラフィリア症群
- 作為症群
- 神経認知障害群
- その他

※ スペースの都合上略称を使用

ICD-11の開発経緯

- 2007年 ICD-11改訂作業開始をプレス発表（東京） WHOの改訂組織において、専門分野別部会等の共同議長をはじめ多くの日本の 医学の専門家・団体が貢献
- 2016年 WHO世界保健総会（WHA）へ経過報告 10月 ICD-11改訂会議（東京） 加盟国レビューの実施
- 2018年 6月 ICD-11 Version for Implementation 公表
- 2019年 5月 第72回WHO世界保健総会（WHA）で採択
- 2022年 1月 ICD-11 発効

WHO-FIC ファウンデーション

- WHO-FIC (Family of Int. Classifications)
 - 1) ICD
 - 2) ICF (Int. Classification of Functioning, Disability and Health)
 - 3) ICHI (Int. Classification of Health Interventions)
- WHO-FICの基盤である情報リソース。
- ICDのほかICHI（手術・処置等）やICF（生活機能）等を含む
- ICD-11に基づく統計用分類や専門科別の分類などを作成するために必要なすべての情報が収容されている。
- 11万5千の用語からなる
- <https://icd.who.int/dev11/f/en>

死亡・疾病統計用分類（MMS）

ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics

- ファウンデーションから、死亡・疾病統計用 に切り出された分類。
- ICD-10からの統計的な継続性等も考慮して章 の構成が決定されている。
- 統計での使用が想定される。
- 時点を固定した 公表版のほか、日々更新されるメンテナンス 版がある。
- 約3万5千の分類項目
- 分類項目にはコードがつく

ICD-11の公表状況

- 基本分類表 I C D - 1 0 の 3 桁分類項目・ 4 桁 細分類項目に対応。
- 2022年 2 月 ICD-11の死亡・疾病統計 用分類（MMS）が公表された（少なくとも5年間の移行期間を設けること）
- 関連学会の協力の下、和訳案を作成した

日本精神神経学会精神科病名検討連絡会（2012）で、2018より導入版の日本語病名の検討を開始した。

- 2024年7月、厚労省ICD-11委員会で承認され、総務省へ通知
- 2026年1月、総務省より告示
- 2027年中、施行の予定

‘disorder’ の翻訳 DSM-5/ICD-11

- 病名の“disorder” 障害 → 症
e.g. panic disorder パニック障害→パニック症
- 障害 → “disability”
- これも 障碍が好ましいのだが、碍=さまたげる

Mental Disorderの訳

- Mental, behavioural and neurodevelopmental disorders
- Mental and behavioural disorders
- Mental disorders

和訳に最も困った用語

精神疾患、精神障害、精神病証（病症） 同音異義は御法度

「精神の疾患」とした

psychotic or psychosisの訳

- (精神病sei-shin-byou)を(精神症sei-shin-sho)とした
- ICD-11では、幻覚・妄想・現実検討の喪失した状態に限られて用いられている。
- 精神病は、‘*Psychose*’とまぎらわしい。
- 精神病は、曖昧な用語で、誤解・偏見の対象

死亡・疾病統計用分類 (MMS)

ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics

01 Certain infectious or parasitic diseases

02 Neoplasms

03 Diseases of the blood or blood-forming organs

04 Diseases of the immune system

05 Endocrine, nutritional or metabolic diseases

06 Mental, behavioural or neurodevelopmental disorders (約2800項目)

07 Sleep-wake disorders

08 Diseases of the nervous system

09 Diseases of the visual system

10 Diseases of the ear or mastoid process

11 Diseases of the circulatory system

12 Diseases of the respiratory system

13 Diseases of the digestive system

14 Diseases of the skin

15 Diseases of the musculoskeletal system or connective tissue

16 Diseases of the genitourinary system

17 Conditions related to sexual health (約110項目)

18 Pregnancy, childbirth or the puerperium

19 Certain conditions originating in the perinatal period

20 Developmental anomalies

21 Symptoms, signs or clinical findings, not elsewhere classified (約3900項目)

22 Injury, poisoning or certain other consequences of external causes

23 External causes of morbidity or mortality

24 Factors influencing health status or contact with health services (約2900項目)

25 Codes for special purposes

26 Supplementary Chapter Traditional Medicine Conditions - Module I

V Supplementary section for functioning assessment

X Extension Codes

21 症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの（約3900用語） 例

Ambivalence	両価性
Anger	怒り
Anhedonia	快楽消失
Anxiety	不安
Apathy	アパシー
Depressed mood	抑うつ気分
Disturbance of affect	感情の障害
Constricted affect	感情の狭小化
Blunted affect	感情鈍麻
Flat affect	平板な感情
Labile affect	感情易変性
Inappropriate affect	不適切な感情
Other specified disturbance of affect	感情に関する症状又は徴候、他の特定される
Disturbance of affect, unspecified	感情に関する症状又は徴候、特定不能
Dysphoria	不快気分
Elevated mood	高揚気分
Euphoria	多幸福感
Fear	恐怖
Feelings of guilt	罪責感
Irritability	易刺激性
Lead paralysis	鉛様麻痺
Mental rumination	精神反芻

21 症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの（約3900用語） 例

Aggressive behaviour	攻撃的行動
Antisocial behaviour	反社会的行動
Avoidance behaviour	回避行動
Bradyphrenia	精神緩慢
Compulsions	強迫行為
Coprolalia	汚言
Disorganised behaviour	行動の統合不全
Disheveled appearance	外見の乱れ
Disruptive behaviour	秩序破壊的行動
Echolalia	反響言語
Excessive crying of child, adolescent, or adult	児童、青年又は成人の過度の啼泣
Increased sociability	社交性の亢進
Mutism	無言症
Non-suicidal self-injury	非自殺性自傷
Odd or peculiar appearance	変わった又は独特の外見
Odd or peculiar behaviour	変わった又は独特の行動
Panic attack	パニック発作
Poor personal hygiene	個人衛生の不良
Poverty of speech	発話の貧困
Pressured speech	発話心迫
Psychomotor agitation	精神運動興奮
Psychomotor retardation	精神運動制止
Social withdrawal	対人的閉じこもり
Suicide attempt	自殺企図
Suicidal behaviour	自殺行動

24 健康状態又は保健医療サービスの利用に影響を及ぼす要因（約2900用語）

Acculturation difficulty	文化変容の困難
Stress, not elsewhere classified	ストレス、他に分類されない
Social role conflict	社会的役割の葛藤
Social exclusion or rejection	社会的排除又は拒絶
Target of perceived adverse discrimination or persecution	自覚された有害な差別又は迫害の標的
Other specified problems associated with social or cultural environment	社会的又は文化的環境に関連する問題、他の特定される
Problems associated with social or cultural environment, unspecified	社会的又は文化的環境に関連する問題、特定不能
Problems associated with health behaviours	健康行動に関連する問題
Hazardous substance use	危険な物質使用
Hazardous alcohol use	危険なアルコール使用
Hazardous drug use	危険な薬物使用
Hazardous use of opioids	危険なオピオイド使用
Hazardous use of cannabis	危険な大麻使用
Hazardous use of sedatives, hypnotics or anxiolytics	危険な鎮静薬、睡眠薬又は抗不安薬使用
Hazardous use of cocaine	危険なコカイン使用
Hazardous use of stimulants including amphetamines or methamphetamine	危険な精神刺激薬（アンフェタミン、メタンフェタミンを含む）使用
Hazardous use of caffeine	危険なカフェイン使用
Hazardous use of MDMA or related drugs	危険なMDMA又は関連薬物使用
Hazardous use of dissociative drugs including ketamine or PCP	危険な解離性薬物（ケタミン、PCPを含む）使用
Hazardous use of other specified psychoactive substances	危険な他の特定される精神作用物質使用

Problems associated with relationships	人間関係に関連する問題
Problem associated with interpersonal interactions	対人交流に関連する問題
Problem associated with relationship with friend	友人関係に関連する問題
Relationships with teachers or classmates	教員又は級友との関係
Dissatisfaction with school environment	学校環境の不満
Other specified relationships with teachers or classmates	教員や級友との関係、他の特定される
Relationships with teachers or classmates, unspecified	教員や級友との関係、特定不能
Problem associated with relationships with people at work	職場の人々との関係に関連する問題
Relationships with neighbours, tenant or landlord	隣人、入居者又は家主との関係
Relationship with parents, in-laws or other family members	親、義理の親族又は他の家族員との関係
Discord with counsellors	カウンセラーとの不和
Inadequate social skills	不十分なソーシャルスキル
Personality difficulty	パーソナリティ困難
Other specified problem associated with interpersonal interactions	対人関係に関連する問題、他の特定される
Problem associated with interactions with spouse or partner	配偶者又はパートナーとの交流に関連する問題
Relationship distress with spouse or partner	配偶者又はパートナーとの関係の苦痛
History of spouse or partner violence	配偶者又はパートナーの暴力の既往歴
Problem associated with interpersonal interactions in childhood	児童期における対人交流に関連する問題
Caregiver-child relationship problem	保護者・児童関係の問題
Loss of love relationship in childhood	児童期における愛情関係の喪失
Other specified problems associated with relationships	人間関係に関連する問題、他の特定される
Problems associated with relationships, unspecified	人間関係に関連する問題、特定不能

ICD-11第6章（精神、行動又は神経発達の疾患）

1. 神経発達症群
2. 統合失調症又は他の一次性精神症群
3. カタトニア
4. 気分症群
5. 不安又は恐怖関連症群
6. 強迫症又は関連症群
7. ストレス特異関連症群
8. 解離症群
9. 食行動症又は摂食症群
10. 排泄症群
11. 身体的苦痛症又は身体的体験症群
12. 物質使用症又は嗜癖行動症群
13. 衝動制御症群
14. 秩序破壊的又は非社会的行動症群
15. パーソナリティ症及び関連特性群
16. パラフィリア症群
17. 作為症群
18. 神経認知障害群
19. 妊娠、出産又は産褥に関連する精神又は行動の疾患
20. 他に分類される障害又は疾患に影響を及ぼす心理的又は行動上の要因
21. 他に分類される障害又は疾患に関連する二次性精神又は行動の症候群

ICD-10から新たに加わった疾患

- Body dysmorphic disorder（身体醜形症）
- Olfactory reference disorder（自己臭関係付け症）
- Hoarding disorder（ため込み症）
- Excoriation disorder（皮膚むしり症）
- Prolonged grief disorder（遷延性悲嘆症）
- Rumination-regurgitation disorder（反芻・吐き戻し症）
- Body integrity dysphoria（身体完全性違和）
- Gaming disorder（ゲーム行動症）
- Compulsive sexual behaviour disorder（強迫的性行動症）
- Intermittent explosive disorder（間欠爆発症）
- その他、複雑性心的外傷後ストレス症、むちゃ食い症など、ICD-10のサブカテゴリー、拡張、拡大から生まれた分類もある。

ICD-11の第6章に加わらなかった疾患

- 急性ストレス反応 → 24章
- 非器質性睡眠障害 → 7章 (6章 secondary parent)
- 性別不合 → 17章 (6章 secondary parent)
- レット症候群 → 20章 (developmental anomalies)
- チック障害 → 8章
- トウレット症候群 → 8章 (6章 secondary parent)

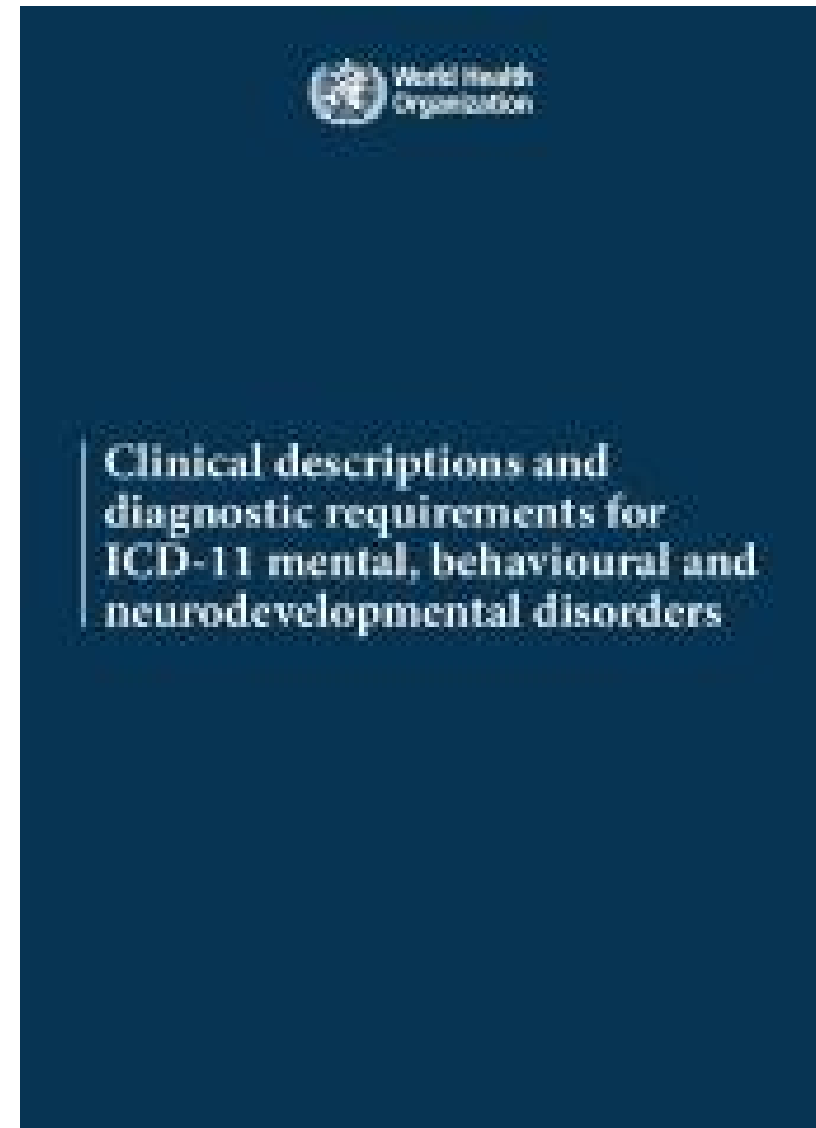
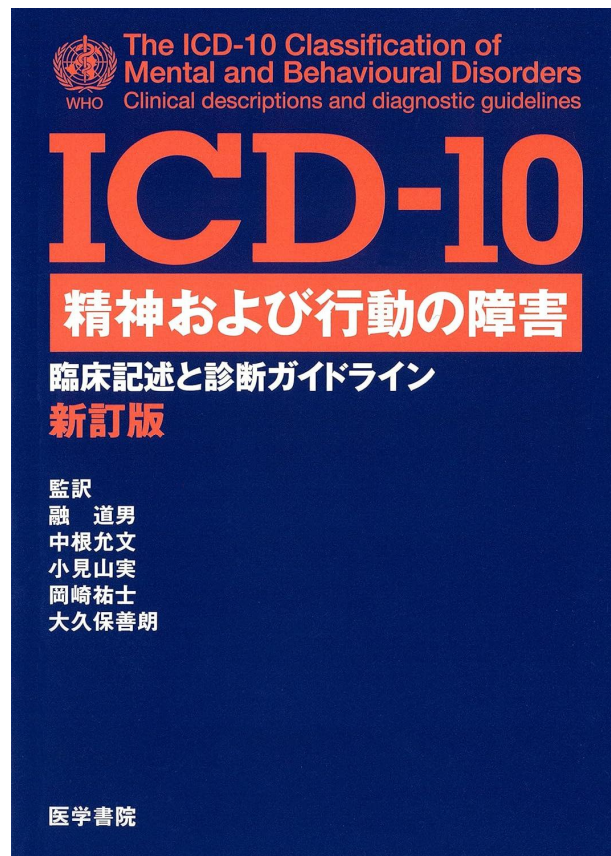
ICD-11で新規に設置された章-1

- 7章: 睡眠・覚醒障害:
 - 現在ICD-10「精神および行動障害」にある「非器質性」睡眠障害、「神経系の疾患」にある「器質性」睡眠障害、およびICD-10の他の部分にあるいくつかの追加カテゴリー（例えば、「呼吸器疾患」の睡眠時無呼吸）を統合している。
 - 精神疾患（6章）と神経疾患（8章）の章の間に位置する。

ICD-11で新規に設置された章-2

- 17章: 性の健康に関連する状態群:
 - 精神・行動障害に含まれる「非器質性」性機能障害と、生殖器系に含まれる「器質性」性機能障害、
 - およびいくつかの追加カテゴリー（例：Gender Incongruence 性別不合）を統合しています。
 - 泌尿器系の疾患群と妊娠・出産・産褥に関連する疾患群の間に配置。

Clinical descriptions and diagnostic requirements for ICD-11 mental, behavioural and neurodevelopmental disorders (CDDR)



CD-11-MBND全体の特徴 ①： 診断に必須の特徴（≠ 診断基準）

- その障害に該当するすべての症例で観察されるはずの特徴を箇条書きで記述
- 「診断基準（diagnostic criteria）」ではなく、
「（より緩やかな）診断要件（diagnostic requirements）」
- より柔軟性をもたせ、はっきりしたエビデンスがないにも関わらず見かけ上は精緻に見える基準（pseudo-precision）を回避（たとえば、持続期間を「6 カ月」の代わりに「数カ月」と表現）

CD-11-MBND全体の特徴 ②：

身心二元論からの脱却・発展

- 睡眠障害や性機能不全は、従来「器質性」と「非器質性」に区分されていた
- 今回の改訂で「睡眠－覚醒障害」と「性保健関連の状態」が新たな章として第6章から独立し、不眠、性機能不全、GIDは各々上述の章に分類
- 認知症については、病因である第8章（神経系の疾患）コード＋精神・行動面の要素を第6章コードの組み合わせで記述
- 身体苦痛症（身体化障害）では、medically unexplainedであることが要件ではなくなり、基礎疾患がある場合にはそれ単独で説明できない、あるいは不相応な苦痛の訴えがあることに表現を変更

CD-11-MBND全体の特徴 ③： ディメンショナルな評価の重視

- 今日、精神疾患は独立したカテゴリというよりも複数のディメンションの組み合わせとして生じる臨床像という理解が一般的
- ディメンショナルな分類は**現在の臨床像**によりフォーカス
- **リカバリー**を志向するアプローチとも合致する
- その人の「タイプ」を表す診断ではなく、**経時的な変化**を想定した診断に